

意見の概要と町の考え方等について

案件名	城南中学校区小中学校長寿命化・集約化に対する意見について
意見の募集期間	令和6年3月11日（月）～ 令和6年4月10日（水）
意見の提出数	1人（2件）

No.	頁	項目	意見の概要	町の考え方
1	1 ～ 2	児童生徒数の状況と施設の現況	<p>学校は、指定緊急避難場所であり教育だけの場所ではない。</p> <p>折原小学校、鉢形小学校両校共校舎は2棟で、児童数の推移は、どちらもかつての半分以下になっており今後増える可能性は低く近年の出生数から10年程度の見込み数はほぼ確定している。</p> <p>劣化状況は、両校共に見える形で表れており、建築当時の耐震基準と現在は大きく変わっており現在基準の耐震性を確保しているとは思えない。全国の建て替え状況は40年が目安となっており、補修か建て替えかの判断をする必要がある。</p> <p>サッシの性能が各段に上がっており、エアコン設置が当たり前になった近年においてこの部分の気密や断熱性能は重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の校舎は昭和40年代に建築され既に50年が経過し、施設の老朽化が随所にみられます。また、児童数が減少し将来推計においても増加が見込めず、特に折原小学校では複式学級が常態化する可能性があることなどから、城南中学校区の小中学校のあり方の検討は喫緊の課題であると認識しております。 ・いただいたご意見につきましては、学校施設のあり方における検討の参考にさせていただきます。
2	7 ～ 8	ワークショップ会議の最終意見に対する提案	<p>小学校2校を集約する場合、鉢形城公園周辺しか候補地にならないと思うが、それによる通学困難者に通学バスの必要性があがる。無遅刻無欠席を目指している場合は、達成がバスの欠便で閉ざされる可能性がある。</p> <p>同時に指定緊急避難場所を一か所失う事になる。</p> <p>中学校は劣化が酷くないと判断し、補修とする。小学生の編入はしない。</p> <p>小学校は両方とも建て替えを提案する。ただし、子供人口から考えて1棟づつとする。北側を取り壊して建て替えすれば転校する事無く可能と考える。取り壊しが片方だけなら南側を建て替え。</p> <p>折原小学校の少人数には、近い地域や馴染まなかった生徒が希望すれば通える存在とす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本案件は、ワークショップ会議での各グループの最終意見に対して、広く、町民の皆さんのご意見を伺うものであります。 ・学校施設は、教育の場であるとともに、地域住民にとっても重要な施設であります。そのため、長寿命化や集約化等の議論については、ワークショップ会議での意見や、パブリックコメント制度を活用した意見募集に加えて、学校現場を熟知した町内の学校長の意見等を踏まえ、町の方針案を決定してまいります。また、地元説明会を開催し、方針案について地域の皆様と対話することで、合意形

		<p>る。現時点でアンケートで希望を調査すればプランのこの選択肢の価値が分かるだろう。仮に急速に少子化進んで廃校となっても集会所や図書館として存続可能と考える。考える場所が必要、無駄にはならない。</p> <p>今の建物と同人数を収容可能な規模で建てる必要は無い。現在の生徒数より多少増えても問題にならない程度で良い。</p> <p>この公共物は未来の労働者を育成する投資と考える。ここを節約する事は町全体の生産力や生活水準を下げると予想します。</p> <p>城南中学校は平成6年築であり、ここの真夏と真冬の電気代が小学校と差があるなら大いに参考になる。開示願いたい。</p> <p>階段を利用した換気で夏季では蓄熱を夜間に放出可能と考える。</p> <p>さらに最新サッシのペアガラスタイプで北側の窓の面積を抑えた設計なら、大きな電気代の節約可能だろう。</p> <p>また、建て替えを先送りすると、働き方改革と労働人口減少で宿泊場所も確保した状況で人を集めないといけない状況にもなりかねない。子育て支援の機運が高い今の内が国や県からの補助金が得られる好機と思います。</p>	<p>成を図ってまいります。</p> <p>・いただいたご意見につきましては、学校施設のあり方における検討の参考にさせていただきます。</p>
<p>※パブリックコメント手続きは、計画案への意見に対する町の考え方をお示しする制度のため、それ以外の部分については掲載しておりません。</p>			